

2025年6月26日
株式会社ロイヤリティ マーケティング

Pontaリサーチ会員3,000人に聞いた
第62回 Ponta消費意識調査 2025年6月発表

【夏のボーナスの使い道ランキング】

**12年連続「貯金・預金」がトップ。一方、割合は4年続けて減少し、過去最低
貯金・預金しない理由は、生活費や日常支出への補填意向が約3割**

共通ポイントサービス「Ponta（ポンタ）」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティング（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：勝 文彦、以下「LM」）は、消費者の意識とポイントの利用意向を把握するため、「第62回 Ponta消費意識調査」を「Pontaリサーチ」にて2025年5月24日（土）～5月26日（月）に実施いたしましたので、ご報告いたします。

注目トピック

「夏のボーナス」の使い道

＜消費者意識＞

- ・ **「夏のボーナス」の使い道（P.2）**
 - －夏のボーナスの使い道、「貯金・預金」が12年連続1位。前回調査より1.0ポイント減り、過去最低の32.4%
- ・ **夏のボーナスの支給額（P.3）**
 - －夏のボーナスの支給額が「増える・増える見込み」が約半数。「40万～80万円未満」の金額帯が増加した
- ・ **夏のボーナスの「貯金・預金」の割合／「貯金・預金」の用途（P.4）**
 - －夏のボーナスの支給額の半分以上を貯金・預金したい人は54.8%
 - －貯金・預金の用途は「老後の生活への備え」が約7割
- ・ **夏のボーナスを「貯金・預金」しない理由（P.5）**
 - －夏のボーナスを「貯金・預金」しない理由、1位「生活費や日常の支出に充てるため」が約3割

＜節約志向＞

- ・ **消費者の節約志向／節約志向の有無の理由（P.6～7）**
 - －「節約したい」派は60.5%となり、前回調査より6.3ポイント減少
 - －前回調査と比べて、節約したい派の理由は「特にない・なんとなく」が5.0ポイント増加、節約したくない派の理由は「節約にまわす余裕がないため」が5.5ポイント増加

＜ポイントサービスの利用意向＞

- ・ **ポイントの活用意識と節約志向（P.8）**
 - －「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が42.5%と最も高い。「節約したい」派では「いまつかいたい」が45.1%と最も高い。「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える

＜調査概要＞

調査方法：インターネット調査

調査期間：2025年5月24日（土）～5月26日（月）

パネル：「Pontaリサーチ」会員（Ponta会員で「Pontaリサーチ」への会員登録をいただいている方）

回答者数：3,000人 男性、女性×年代別（20・30・40・50・60代以上）の各10セルで300サンプル

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。

＜引用・転載の際のクレジット表記のお願い＞

調査結果引用・転載の際は、“「Pontaリサーチ」調べ”とクレジットを記載していただきますようお願い申し上げます。

＼ LMは、「Ponta」の「便利・おトク・楽しい」世界が、いつでもどこでも広がる生活密着型サービスを提供しています ／

消費者意識

「夏のボーナス」の使い道

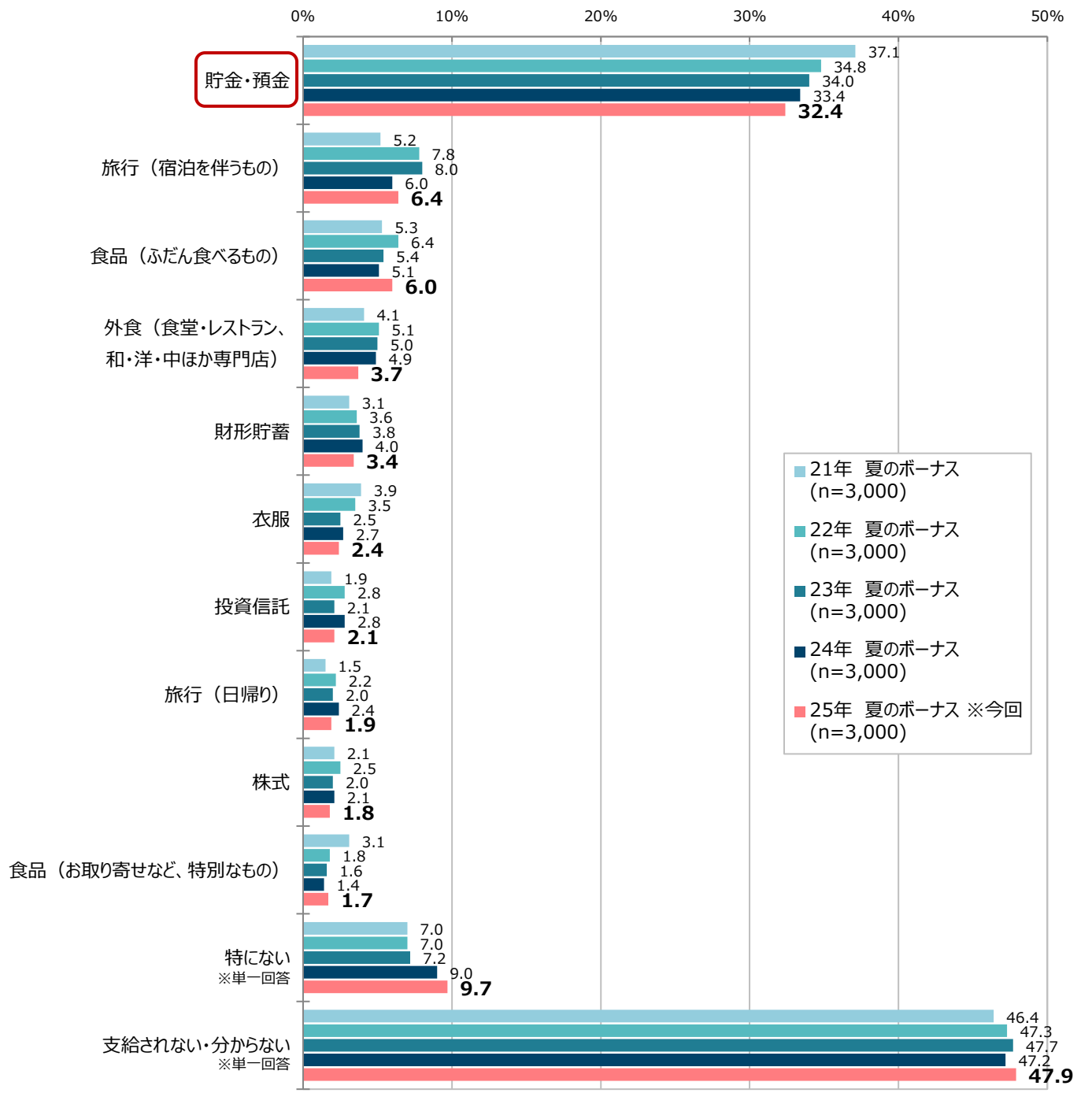
夏のボーナスの使い道、「貯金・預金」が12年連続1位。前回調査より1.0ポイント減り、過去最低の32.4%

- 2014年の調査開始以降、夏のボーナスの使い道は12年連続で、1位「貯金・預金」となった。割合をみると前回調査よりも1.0ポイント減少し、32.4%だった。前回調査を下回るのは4年連続で、過去最低となった。2位は「旅行（宿泊を伴うもの）」、3位は「食品（ふだん食べるもの）」だった。
- 「特にない」は前回調査より0.7ポイント増の9.7%、「支給されない・分からない」は0.7ポイント増の47.9%だった。

■今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。（3つまで）

※今回調査で上位10項目を抜粋（「特にない」「支給されない・分からない」を除く） ※回答が同数で順位に差がある場合は、小数点第2位以下に差があるため

※2014～2020年の夏のボーナスに関する調査結果は、こちらからご確認ください。（<https://www.loyalty.co.jp/assets/storages/pdf/200624.pdf>）



消費者意識

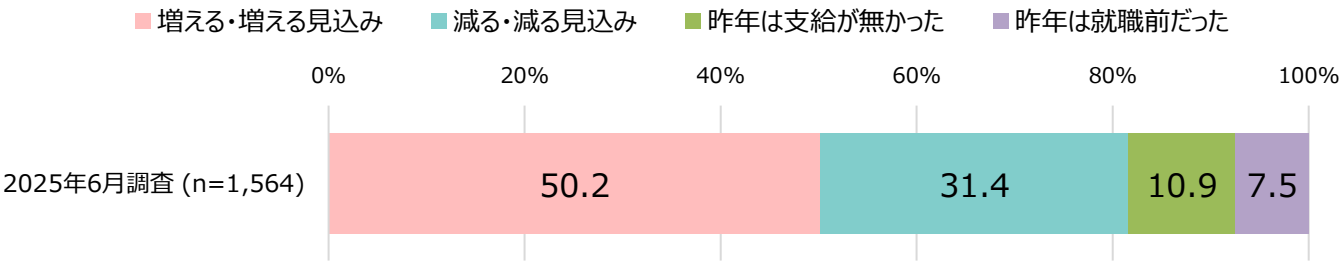
夏のボーナスの支給額

夏のボーナスの支給額が「増える・増える見込み」が約半数。「40万～80万円未満」の金額帯が増加した

- ・今年の夏のボーナスが支給される方（見込み含む）に、昨年と比較した支給額について聴取したところ、「増える・増える見込み」という回答が50.2%で最多だった。
- ・夏のボーナスの世帯あたりの支給額（想定額を含む）は、前回調査と比べて「20万円未満」「20万円～40万円未満」が減少し、「40万円～60万円未満」「60万円～80万円未満」が増加した。

■今年の夏のボーナスの金額（世帯あたり）は、昨年の夏のボーナスと比較して、どう変化したか教えてください。これから支給される場合は、見込みを教えてください。（単一回答）

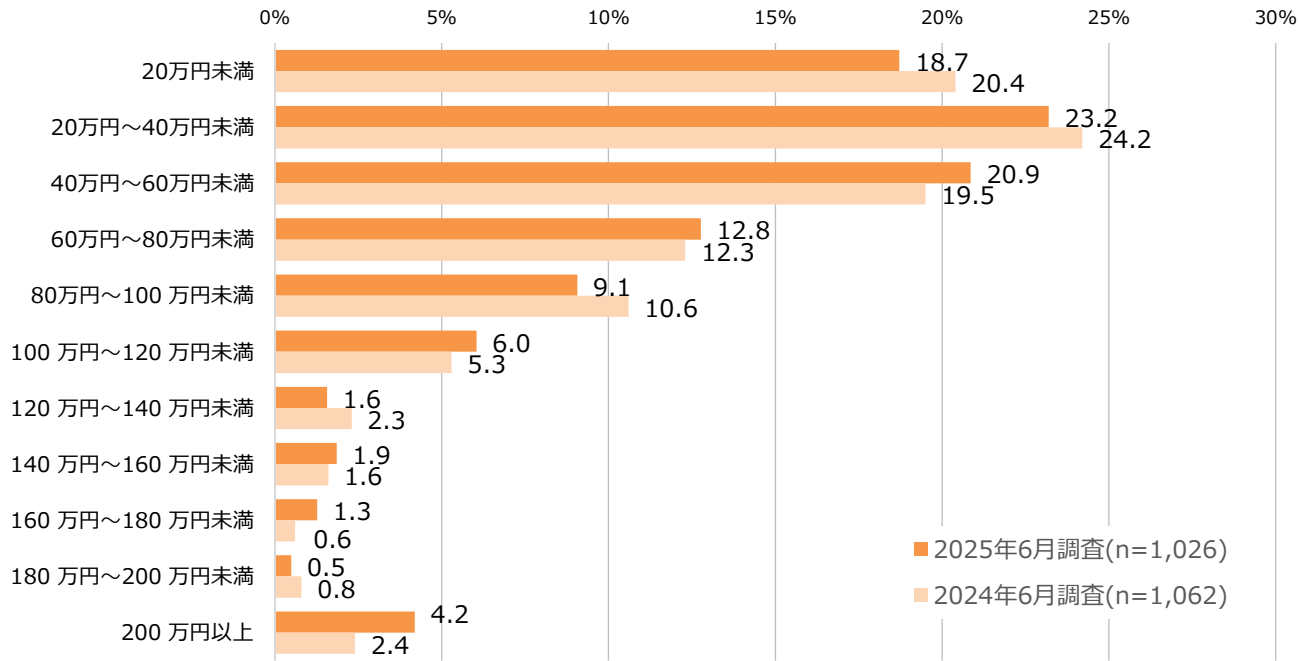
「今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。」（P.2）の設問に対し、「支給されない・分からない」と回答した方を除く。



■あなたもしくは家族にボーナスが支給される場合、今年の夏のボーナスの金額(世帯あたり)を教えてください。これから支給される場合は、想定される金額を教えてください。（単一回答）

「今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。」（P.2）の設問に対し、「支給されない・分からない」と回答した方を除く。

※本設問で金額を回答した方を抜粋（「分からない・答えたくない」と回答した n=538 を除く）



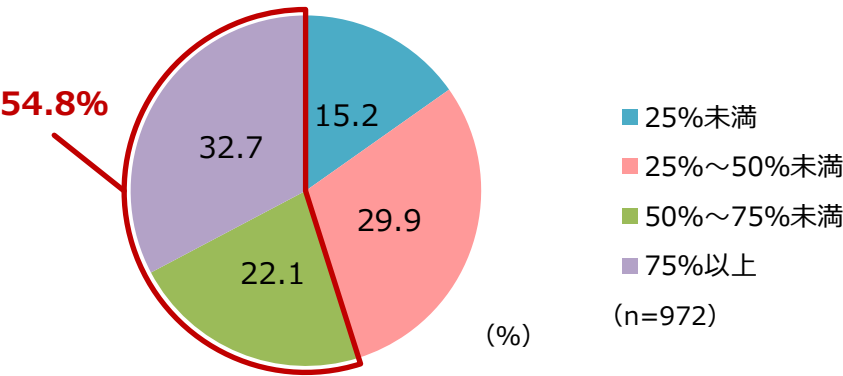
消費者意識

夏のボーナスの「貯金・預金」の割合／「貯金・預金」の用途

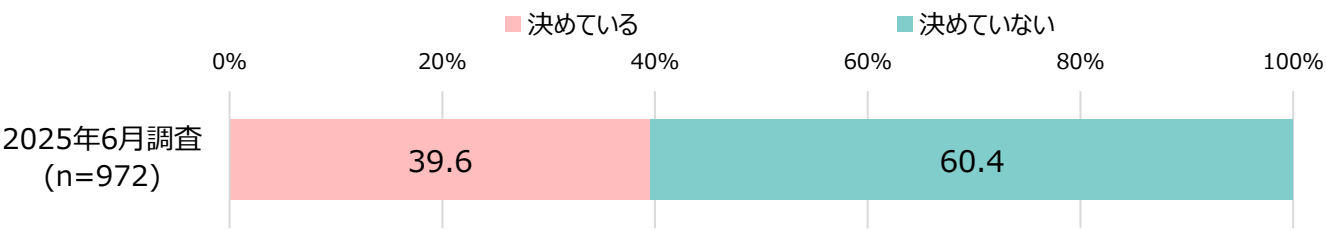
夏のボーナスの支給額の半分以上を貯金・預金したい人は54.8%。
貯金・預金の用途は「老後の生活への備え」が約7割

- 夏のボーナスの支給額のうち、貯金・預金したい額の割合が「75%以上」という回答が32.7%、「50%～75%未満」が22.1%となった。合わせると、支給金額の半分以上を貯金・預金したい人は54.8%だった。
- 夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」と答えた方のうち、用途を「決めている」人は39.6%だった。
- 貯金・預金の用途について、「老後の生活への備え」が69.4%となり、突出して高かった。
「将来の消費への備え（住宅購入、子どもの学費など）」（36.9%）と比べると、32.5ポイント差となった。

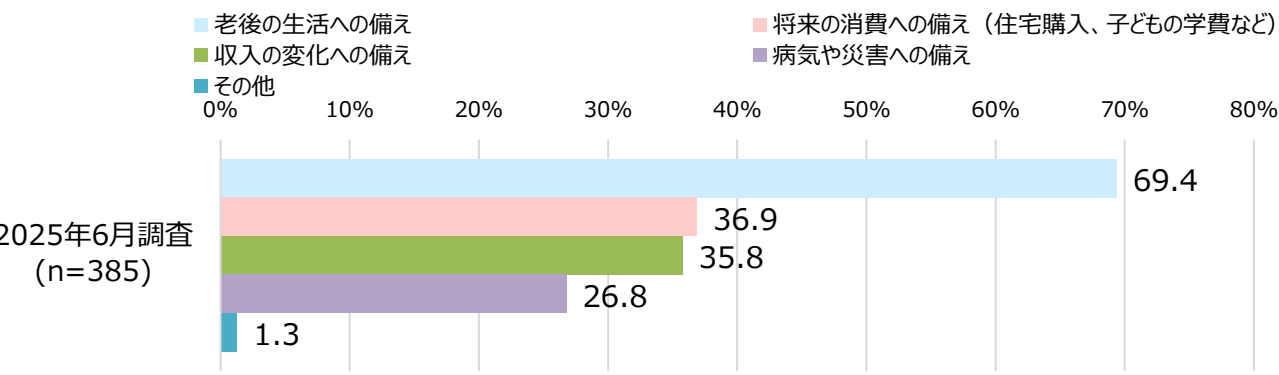
■ 支給される金額のうち、どの程度貯金・預金したいか、お答えください。（単一回答）
今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。



■ 「貯金・預金」の用途は決めていますか。（ひとつだけ）
今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。



■ 「貯金・預金」の用途を教えてください。（いくつでも）
今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のうち、用途を決めている方のみ回答。



消費者意識

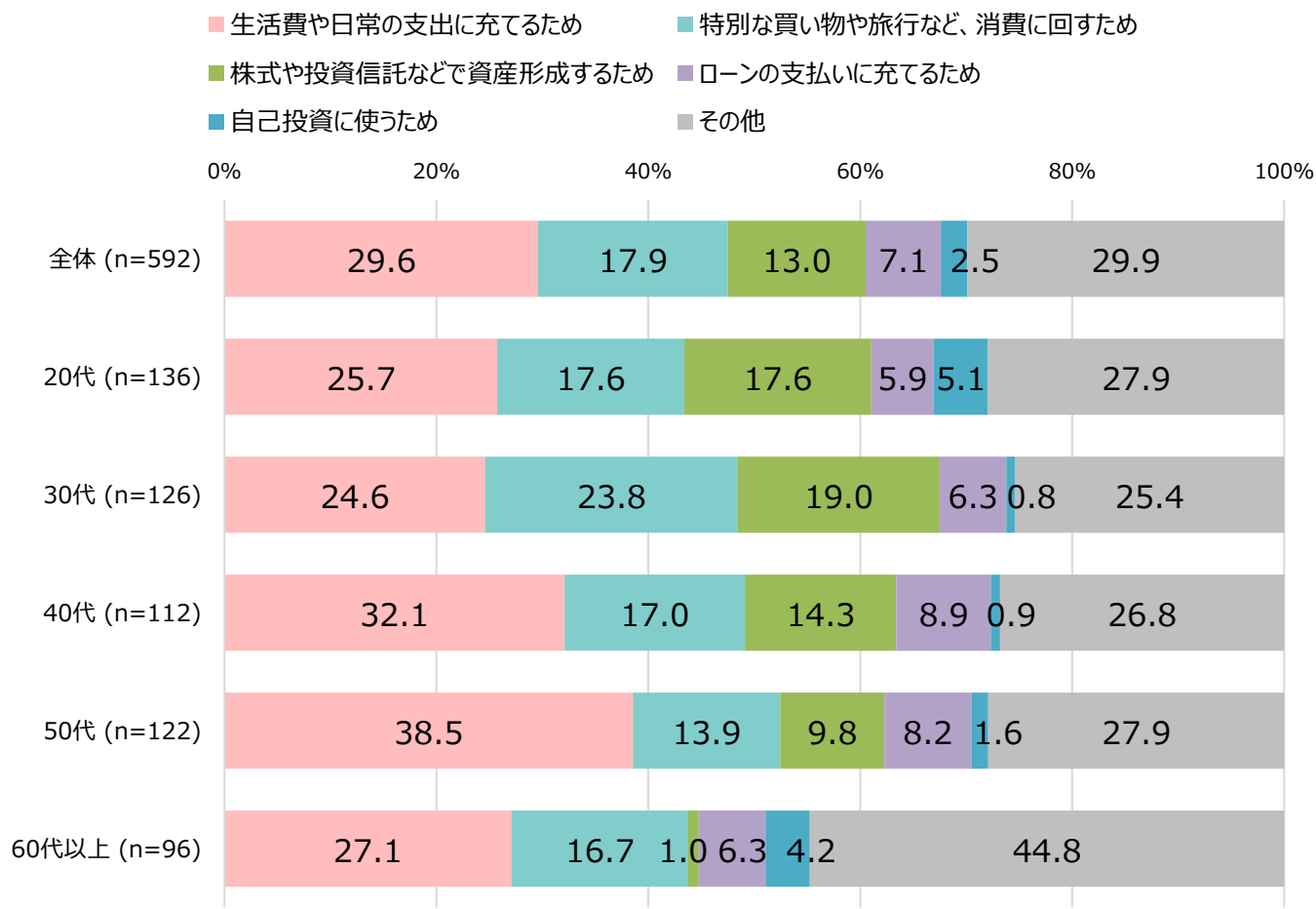
夏のボーナスを「貯金・預金」しない理由

夏のボーナスを「貯金・預金」しない理由、1位「生活費や日常の支出に充てるため」が約3割

- 夏のボーナスの使い道として、「貯金・預金」を選択しなかった方にその理由を聴取したところ、1位「生活費や日常の支出に充てるため」となり、約3割を占めた。
次いで、2位「特別な買い物や旅行など、消費に回すため」が約2割だった。
- 年代別でみると、50代が「生活費や日常の支出に充てるため」が最も高く、38.5%だった。
60代以上では「その他」が44.8%と、他の年代よりも高かった。

■今回、ボーナスの使い道として「貯金・預金」を選ばなかった理由を教えてください。（ひとつだけ）

※「今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。」（P.2）の設問に対し、「貯金・預金」以外を選択した方に聴取（支給されない・分からないを除く）。



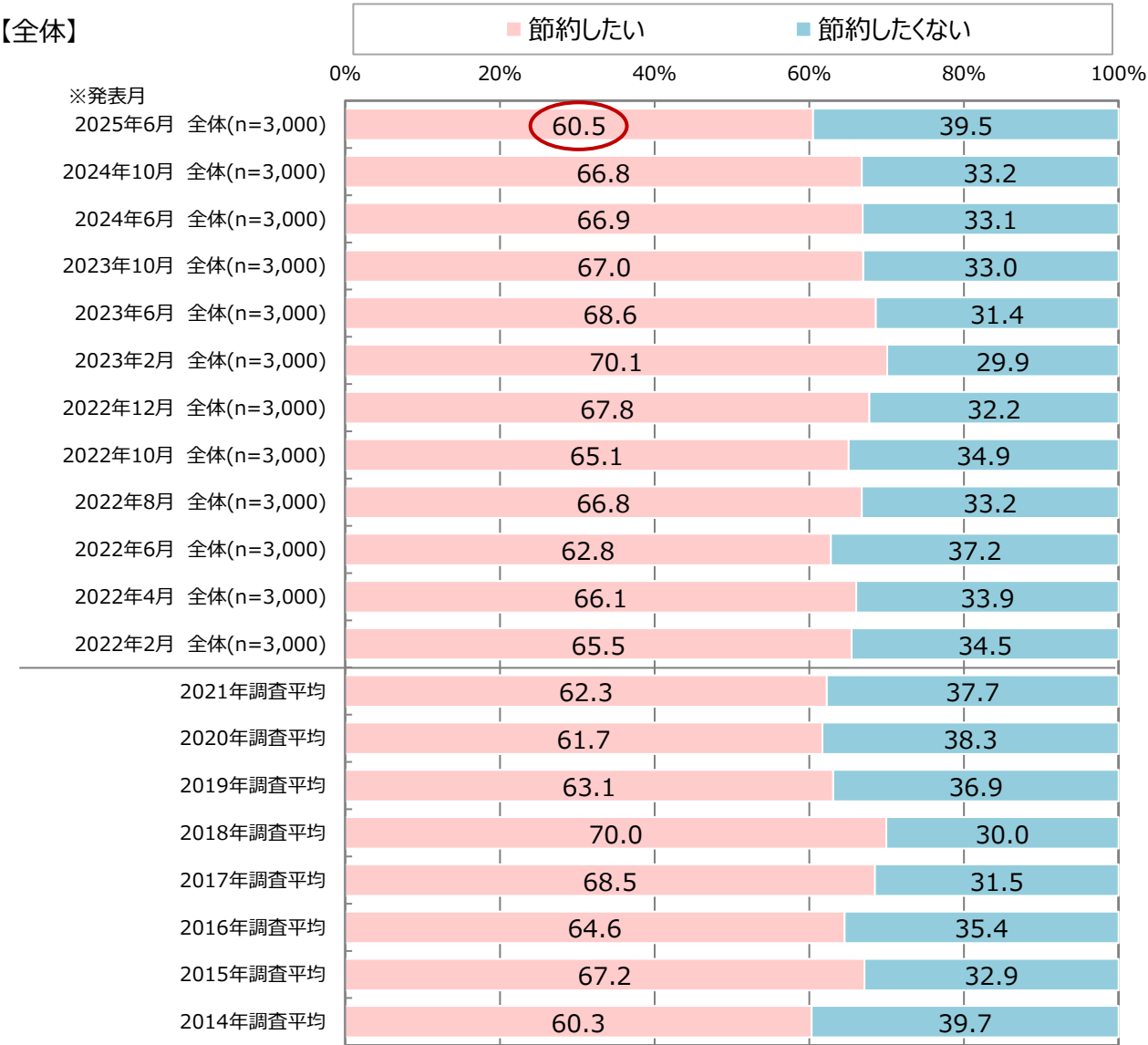
節約志向

消費者の節約志向

「節約したい」派は60.5%となり、前回調査より6.3ポイント減少

・ 今月の家計の支出を節約したい金額に 1 円以上を回答した「節約したい」派は、60.5%となった。

■ 今月の家計の支出を節約したい割合



・ 節約したい…節約したい金額が 1 円以上
・ 節約したくない…節約したい金額が 0 円

【参考】 <設問> あなたは、今月の家計の支出をどのくらい節約したいですか。（半角数字で入力）
※とくに節約したいと思わない人は「0」と入力してください。

※2014年調査平均は4～12月の偶数月5回分、その他の年ごとの調査平均は2月～12月の偶数月6回分の平均です。
各調査n=3,000、2014年4月調査のみn=3,013です。

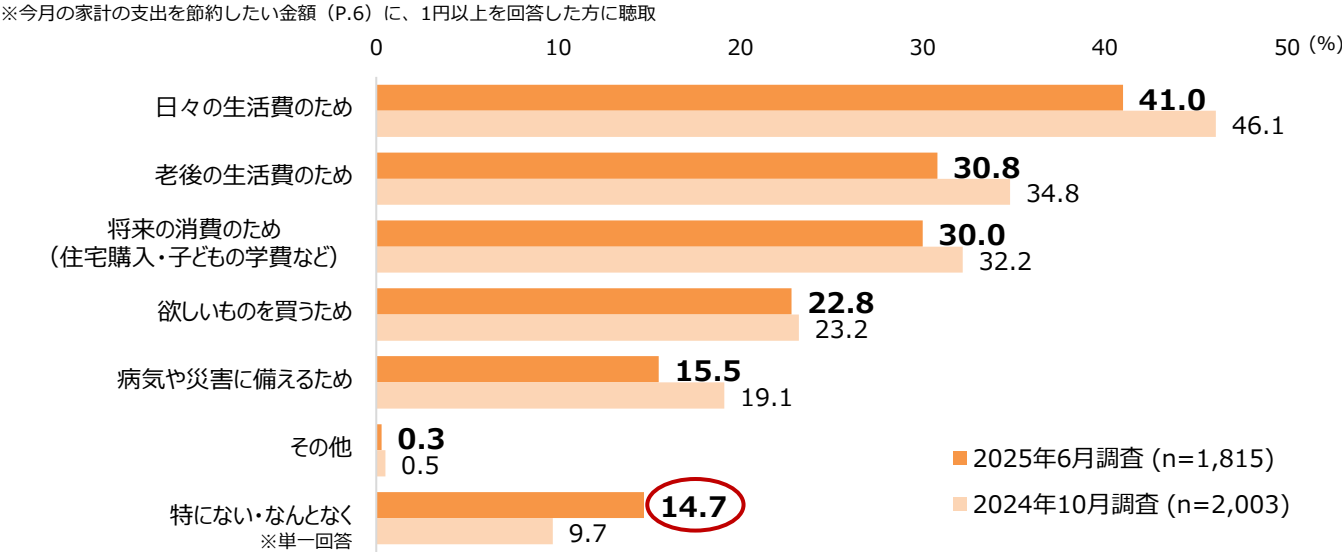
節約志向

節約志向の有無の理由

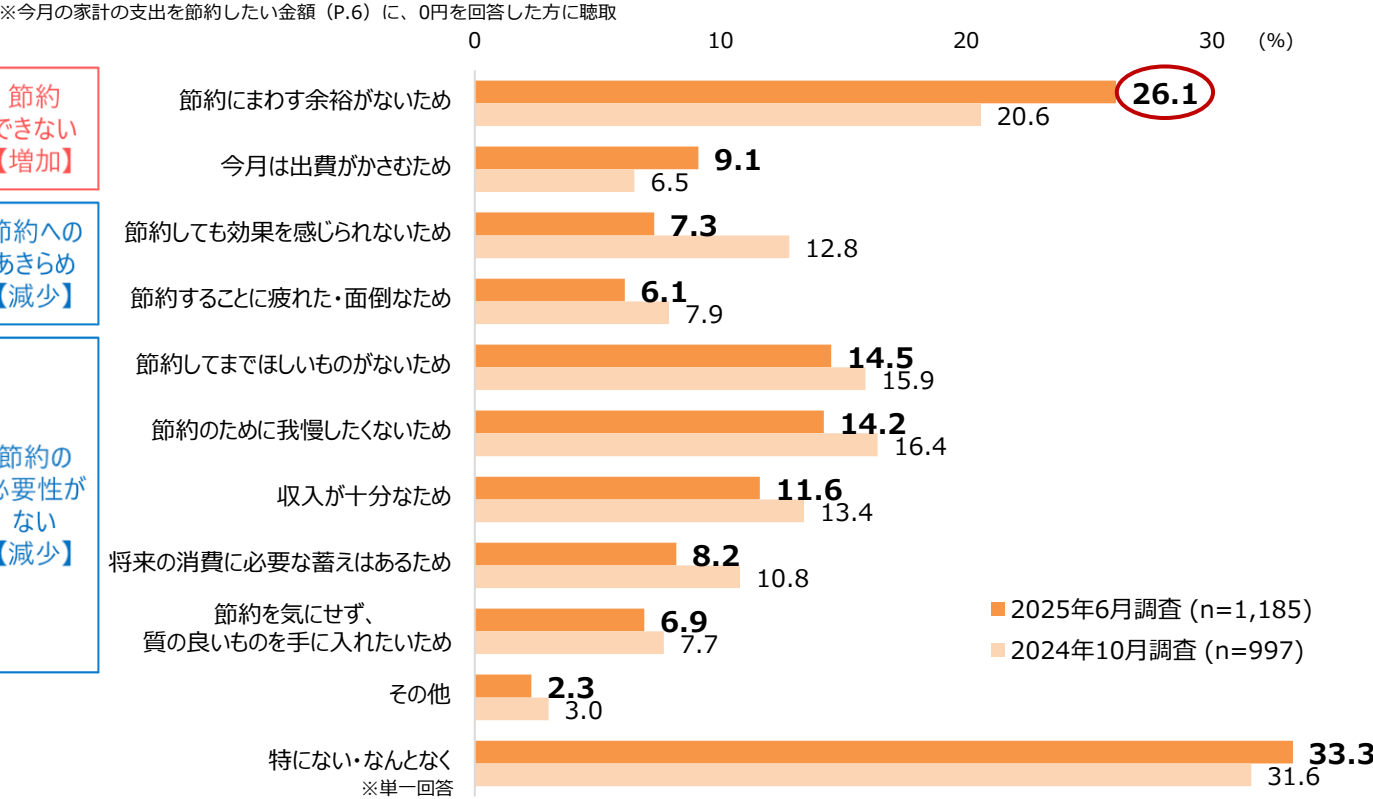
前回調査と比べて、節約したい派の理由は「特にない・なんとなく」が5.0ポイント増加、節約したくない派の理由は「節約にまわす余裕がないため」が5.5ポイント増加

- ・ 今月の家計の支出を節約したい金額に1円以上を回答した「節約したい」派の理由は、前回調査と比べて「特にない・なんとなく」が5.0ポイント増え、14.7%だった。その他、明確な理由の選択肢は全て減少した。
- ・ 今月の家計の支出を節約したい金額に0円を回答した人の理由は、前回調査と比べて「節約にまわす余裕がないため」が5.5ポイント増えて26.1%だった。“節約の必要性がない”に当たる選択肢が全て減少していることから「節約したくない」という意向よりも、「節約する余裕がない」という実情への変化が伺える。

■節約したいと考えている方にお伺いします。節約したい理由を教えてください。（いくつでも）



■節約したい金額が0円の方にお伺いします。その理由を教えてください。（いくつでも）



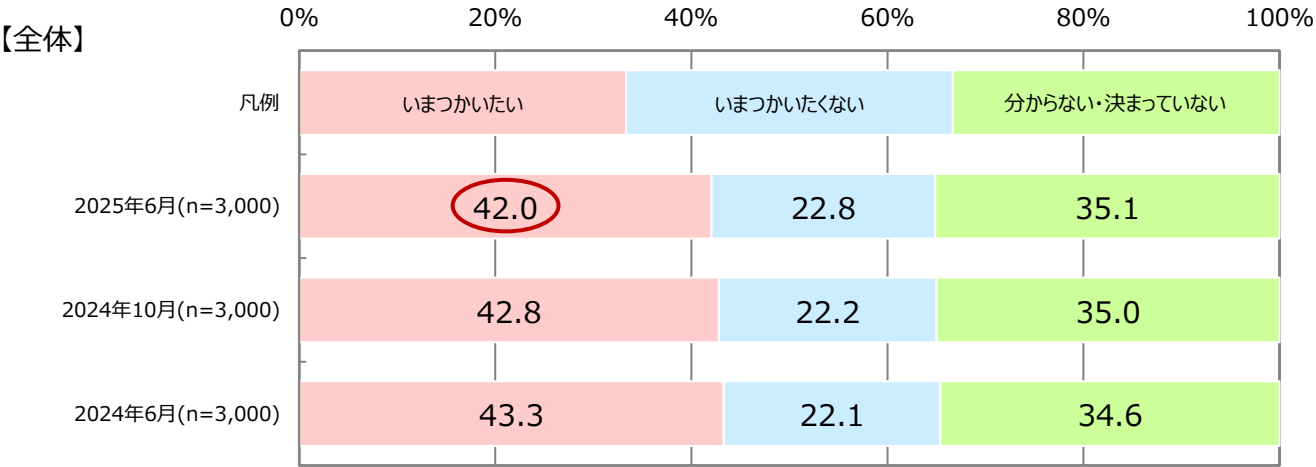
ポイントサービスの利用意向

ポイントの活用意識と節約志向

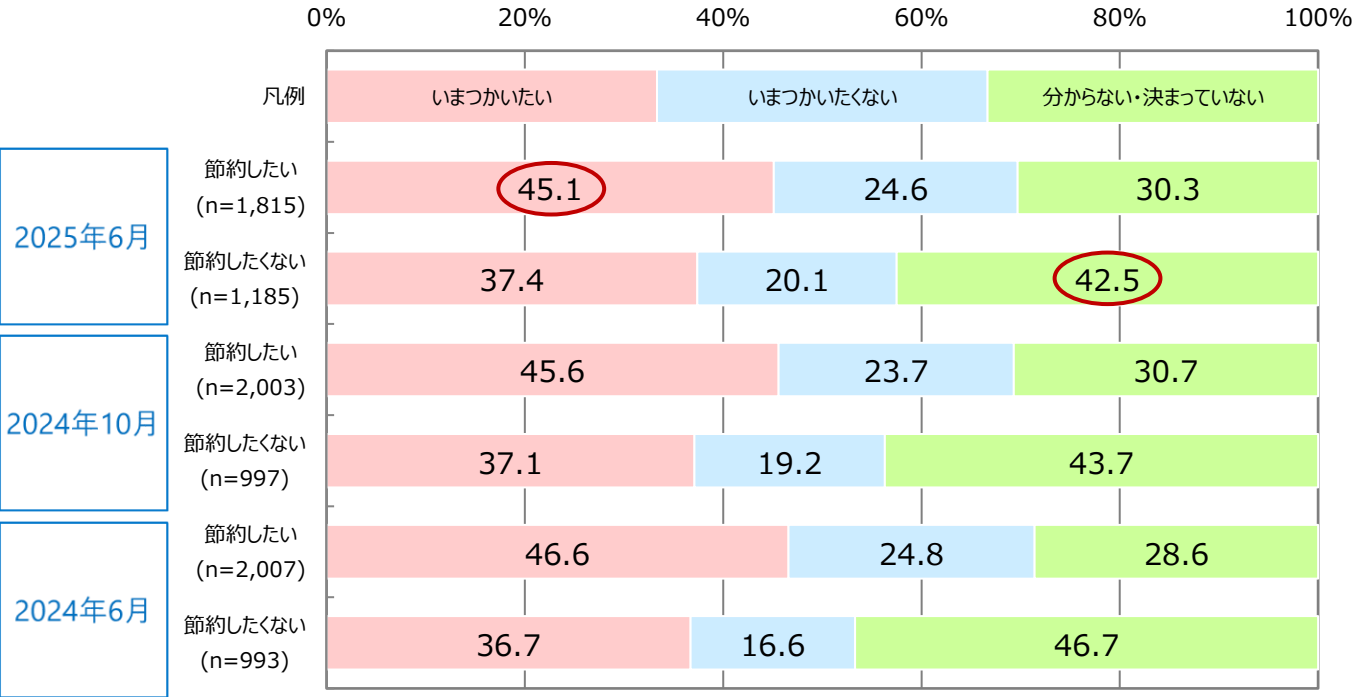
「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が42.5%と最も高い。
「節約したい」派では、「いつかいたい」が45.1%と最も高い。
「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える

・いまPontaポイントをつかいたいかについて、全体で「いつかいたい」が最も高く、42.0%となった。

■あなたはいまPontaポイントをつかいたいですか。（単一回答）



【節約志向の有無別】（2024年6月～2025年6月調査）



<「Pontaリサーチ」について>

PontaリサーチはLMが提供するリサーチサービスで、Ponta会員のうち「Pontaリサーチ」にご登録いただいているPontaリサーチ会員を対象に、自主調査や企業および団体などから依頼を受けたアンケートをご案内しています。Pontaリサーチ会員の皆様は、アンケートにご協力いただくことでPontaポイントをためることができます。

「Pontaリサーチ」サイトURL：<https://www.loyalty.co.jp/ponta-research/>

